

“日本一元気な町づくり”
ふる里 復興・創生「新年の年」

－いのちを守り、人を活かし、未来をつくる町－

令和元年第2回広野町議会定例会が6月13日、14日、2日間の会期で開催されました。その中で遠藤町長より第1回定例会（3月開催）以降の町政経過報告が行われました。一般質問を経て、議案審議がなされ、すべての議案が可決されました。町民の皆さんにお伝えしたいことがたくさん盛り込まれていますので、主な内容の抜粋を掲載します。



遠藤町長

総務課

4月19日、行政サービスの向上を図るべく、町職員等の能力開発・人材育成に積極的に取り組む組織風土の醸成及び職員自身の意識改革を目的とする研修会「プロフェッショナルセミナー」を開催しました。今回は公益財団法人日本サッカー協会会長の田嶋幸三様を講師にお迎えし「夢があるから強くになれる。世界を目指す日本サッカー」のテーマで講演されました。当日は社会福祉協議会、広野町振興公社、ふたば未来学園からも多数の参加がありました。この講演を通し、職員力の向上、行政サービスの質の向上につなげていきます。



行政区長会議

4月26日、広野町中央体育館会議室において平成31年度行政区長会議を開催し、各課担当課長が平成31年度の重点事業などを説明し事前にいただいていた行政区長からの要望・質問事項

について回答しました。

5月19日、午前10時及び午後6時から広野町中央体育館会議室において住民説明会を開催しました。多くの住民参加の下、各担当課長等から令和元年度の重点事業を説明し、さまざまな意見が交わされました。5月31日、福島県広野町東日本震災の記録第3版を編集発行するため、8名の委員を委嘱し、第1回編集委員会を開催しました。東日本震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から私たちが歩んできた道を、震災の記憶を風化させることなく記録に残し、後世に確実に伝えることが出来るよう取り組んでいきます。

復興企画課

広野町東側第二期開発（住宅用地）整備事業につきましては、東日本震災及び原子力事故以降、双葉地域において住宅用地を確保することが困難であり、住宅需要も継続して高い状況にあることから、新たに住宅用地及び住宅を整備する計画として進めて参りました。3月5日に開催したプロポーザルによる開発事業者の選考会でパナソニックホームズ株式会社に決定し、4月23日に町三役並びに町議会議長、副議長及びパナソニックホームズ株式会社の関係者が出

席のもと、開発推進に関する協定を締結しました。事業規模は、総面積2万794平方メートルで、開発予定区画数は57区画とし、令和3年3月末の造成完了を予定しております。

4月20日、福島県並びに双葉地方町村会及びJR東日本水戸支社と共に進めてきましたJR常磐線広野駅と木戸駅の間に位置する「Jヴィレッジ駅」が新駅として完成し、「サッカーナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ」の全面再開に合わせて記念式典が開催されました。JR東日本水戸支社により、現在の駅利用者数は約5千人と公表されており、現在はイベントなどの開催に合わせて開業する臨時駅ですが、今後はJR常磐線の全線開通に向けて常設駅となるよう、また、広野駅の特急停車の要望と合わせて双方の駅の利用促進につながる施策を検討していきます。更に、同日に開催されたサッカーナショナルトレーニングセンターJヴィレッジの全面再開イベントには、高円宮妃殿下をはじめ渡辺復興大臣、内堀知事など、多数のご来賓のご臨席のもと盛大に開催されました。参加総数は約2万人と発表されており、賑わいが復活したJヴィレッジを日本サッカー協会の田嶋会長も「サッカーの聖地が復活した」とコメントしています。

来年には、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーの出発地として注目を浴びており、交流人口の拡大と復興が進む被災地の情報を国内、全世界へ発信していきたいと考えております。



Jヴィレッジ全面再開式典

友好の証として記念植樹が行われました。当日は、「2019ジュニアランドひらた芝桜まつり」のオープニングセレモニーも併せて行われ、盛大に開催されました。今後とも、三町村の交流を教育、文化、観光へ発展させ友好を深めて参りたいと考えています。

6月6日、7日、吉野正芳前復興大臣のもと、渡辺博道復興大臣、世耕弘成経済産業大臣、原田義昭環境大臣、自由民主党東日本震災復興加速化本部額賀福志郎本部長、山口那津男公明党代表、に対し町議会との合同で「復興推進体制の継続について」他21項目について要望いたしました。東京電力ホールディングス株式会社に対しては「福島第一原子力発電所の安全対策の徹底と着実な廃炉、適時適切な情報提供について」、株式会社JERAに対しては「広野火力発電所の発電規模の維持と運転再開について」などを要望いたしました。

健康福祉課

町民の皆さんが、健康で安心して暮らせるよう医療環境の充実向上を図ることを目的とした医療環境向上推進事業につきまして、平成30年度において、土曜・日曜・祝日等の休診日、延べ105日間において当番制

による診療体制を整えることが出来ました。また、救急患者の受け入れは、診療時間内26名・診療時間外340名・深夜時間36名、延べ402名の受け入れとなっております。3月29日、放射線に関する有識者で組織する第5回の広野町放射線健康対策委員会を開催し、外部被ばく・内部被ばく、食品等のモニタリングデータをもとに、放射線防護対策についての分析・評価と、31年度の取り組みに対する助言をいただきました。本年3月、健康増進法および食育基本法に基づき、町民の健康増進の推進、食育の推進に関する施策を展開するため、「第二次広野町健康づくり計画」を策定しました。この計画に基づき、健康寿命の延伸を目指し、健康相談、健康教室、家庭訪問、各種健診などの様々な施策に取り組み、町民の健康づくりを推進します。また、自殺対策基本法に基づき、「広野町自殺対策計画」を策定しました。この計画に基づき、「生きることを支えあい一人ひとりの大切ないのちをみんなでつなぐまち」を目指し、こころの相談会やゲートキーパー養成講座などの様々な事業を展開します。4月22日、地域包括ケアシステムの構築、在宅医療と介護連

携の施策を講じることを目的に、医療、介護及び保健機関が可能な情報共有を図ることが可能な情報共有ツールを一本化した町独自の「地域連携手帳」を作成するため、医師、薬剤師、看護師や社会福祉士など、22名の委員を委嘱し、広野町健康福祉手帳作成事業検討委員会を開催しました。



健康福祉手帳作成事業検討委員会委嘱状交付

4月26日、町民の健康づくりと保健事業の円滑な運営を図るため、広野町保健協力員・母子推進員10名の委嘱を行いました。

こども家庭課

4月4日、広野町児童館で入館式を行い、広野小学校の児童86名が入館しました。4月6日、幼保連携型認定こども園「広野こども園」の開園式・入園式を行い、ゼロ歳児から5歳児までの78名が入園しました。園内には、広々とした遊

戯室や園庭など、子どもたちが安心・安全に過ごせるよう環境の整備に努めております。



こども園入園式

4月15日、初めての妊娠・出産・子育ての不安などを解消することを目的に、助産師さんによるミニ講座「トキトウカ事業」を開催し、2名の妊婦と配偶者1名の参加があり、参加者からは、「直接助産師に相談ができ、不安解消になった。」との感想を頂きました。

4月16日、5月21日の両日、乳幼児健診を実施し、富岡町から避難している乳幼児も含め、14名の参加がありました。

5月8日、広野町子ども・子育て支援会議を開催し、保護者や学識経験者など11名に委嘱状を交付しました。新たな「子ども・子育て支援計画」の策定に取り組みしていきます。

環境防災課

4月より児童・生徒の徒歩通

5月1日は「平成」から「令和」へと新しい時代の幕開けとなりました。新天皇が即位され、新しく元号に選ばれた「令和」の典拠となったのは万葉集の梅花の歌の序文とされています。当町にも、国道6号の西側にある二ツ沼には万葉の歌碑があることから、新元号に因み、吉野前復興大臣並びに町議会議長、副議長のご臨席を賜り歌碑の前に「梅の木」を記念植樹いたしました。

5月3日、平田村「ジュピアランドひらた」において、去る3月9日に広野町、平田村、西会津町の関係者と議会議員が一帯に会して締結した「浜・中・会津友好交流協定」にもとづき、